

渋滞調査、報告を簡素化

海コン協会 理事会も回数削減

阪神港海上コンテナ協会（山口与嗣雄会長）は7月26日、神戸市灘区の兵庫県トラック総合会館で理事会を開き、会員に毎月提出を求めている渋滞時間調査報告を年2回に簡素化する方針に改め

た。毎月実施している理事会も今後は3カ月間に1回程度に減らす。海上コンテナ車両はターミナル直前で入構待ちさせられる場合が多く、阪神港海コン協会でも大阪、兵庫両府県トラック協会の海コ

ン部会とともにターミナルを運営する港運事業者に改善を申し入れるなどしているが、会員会社とドライバーの協力を得て待機時間の調査も続けている。待機時間調査は現在、月ごとにまとめて提出し

てもらっているが、会員の負担を軽減するため年2回の繁忙期に絞って実施する方向に変わると見られる。

同様の調査を行っている東京都トラック協

会の海コン部会も調査期間を毎年5月と12月の繁忙期に限定しており、阪神港海コン協会もこれに準じる。

理事会もこれまでは毎月開催していたが、

山口会長（近畿木材運輸）は「役員の負担が大きいの。協会の経費削減の効果も期待できるので、3カ月に1回としたい」と回数を減らす理由を説明した。必要な場合は臨時理事会を開いて対応する考えだ。



阪神海コン協会の理事会

一方、兵下協の海コン部会長でもある佐賀里隆之常務理事（協栄運輸）は同部会が進めているターミナルへの渋滞緩和の申し入れについて、「目に見える改善策を8月中旬に回答するよう求めている」と述べ、有効な改善策が示されなかった場合はSNSなどを活用して世論を喚起する意向を改めて強調、海コン協会に協力を求めた。